

令和元年度学校自己評価システムシート（さいたま市立浦和南高等学校）

（学校番号 s 5 1）

目指す学校像	南高生の誇り10箇条を座右の銘とし、人格の完成を目指し、豊かな情操を培い、探求心旺盛な自主自立の精神に満ちた心身共に健康な民主的社會人の育成を期する。
重点目標	1 主体的に学習できる生徒の育成と進路実績の一層の向上を図る。 2 活力と特色ある教育活動を推進する。 3 コミュニティ・スクール先進校として地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価（2月1日現在）			実 施 日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策
1	個のニーズに応じた選択科目を充実させた週34単位、年8回の土曜授業の導入から3年目の完成年度を迎え、生徒の確かな学力を育成するために、以下の検討・実践を行う。 ①新学習指導要領に対応した授業改善について具体的な方策を探り実践する。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実践 ・「何のために学ぶのか」という目的意識の醸成 ・「総合的な探究の時間」の実践 ・整備されたICT環境の有効活用 ・新教育課程の作成 ②生徒の進路実現のための的確な情報を提供し、進路実現を向上させる。 ・新大学入試への対応 ・英検、GTECの全員受験の継続	授業改善による確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業、授業研修会の実施</li> <li>ICT教育の実践</li> <li>AL実践の推進</li> <li>「総合的な探究の時間」における「南高 Action for SDGs」の実践</li> <li>生徒アンケートの実施</li> <li>教育課程委員会による教育課程の検討と作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業を通して、授業改善研修会を年3回以上実施。</li> <li>ICT環境活用方法の検討と実践。</li> <li>ALの手法を用いた授業の実践。</li> <li>「総合的な探究の時間」の実践による学びに対する主体性の伸長。</li> <li>授業満足度の向上。</li> <li>新教育課程の完成と仮提出の準備。</li> </ul>			
		進路希望実現に向けた計画的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学補習の充実</li> <li>進路ガイダンスや模擬試験、英語資格試験の参加率向上</li> <li>模試分析会の活用</li> <li>キャリア意識啓発</li> <li>新大学入試への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補習数と参加生徒数の増加。</li> <li>保護者対象や各年次における進路ガイダンスの計画・実施。英検準2級以上の合格率9割を保持する。</li> <li>模擬試験受験率の向上及び分析会の活用。</li> <li>多角的なキャリア教育の計画と実施。具体的な進路意識の啓発。</li> <li>学習支援クラウドサービスの効果的な活用。</li> </ul>			
2	生徒の人格形成を進め、キャリア意識を醸成させるため、今年度も以下の体験的な教育活動を実践する。 ①学校行事の充実と安全な実施 ②「3つの感動体験」の充実 ③スポーツを科学する生徒の育成	学校行事の充実と安全確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の参画意識を啓発し、主体性を引き出す学校行事の実施</li> <li>学校行事における安全確保の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒主体の体育祭、文化祭の実施</li> <li>登下校時の安全指導の徹底およびPTAと連携した行事の安全強化</li> </ul>			
		多角的に人間形成を進める特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>3つの感動体験のほか体験型教育活動の実施、参加生徒数の増加</li> <li>高大連携によるキャリア教育の推進</li> <li>科学的アプローチによる課題解決能力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験型教育活動に積極的に参加し主体的に学ぶ生徒の増加。</li> <li>高大連携事業の計画と実施による進学意識の啓発。</li> <li>データをもとに課題を発見し、コミュニケーションを図り、課題の解決方法を考える生徒の育成。</li> </ul>			
3	コミュニティ・スクール先進校として、関係諸機関と連携するとともに、学校の組織力を高めることで、地域に開かれた信頼される学校となるように以下の実践を行う。 ①保護者、地域に開かれた学校づくり ・グラウンドの地域開放や地域連携事業の充実 ・家庭との連携強化 ②企画委員会を中心とした風通しの良い学校運営 ・校務全体に対する職員の共通理解の深化 ・学校課題の共通理解と、解決に向けた組織的な対応	保護者、地域に開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣小中学校、辻地区、さいたま市及び南区との連携推進</li> <li>広報活動の活性化</li> <li>地域、保護者への迅速な情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携事業等の活性化による「コミュニティリーダー」の育成</li> <li>授業公開や学校説明会の充実。</li> <li>H Pを活用した細やかな発信とメール配信を活用した家庭との連携強化。</li> </ul>			
		企画委員会を中心とした風通しの良い学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務の可視化や年度総括の共有による校務全体に対する共通理解の深化</li> <li>企画委員会を中心とした学校課題の共通理解と、解決に向けた組織的な対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度総括の活用方法の検討と効果的な活用および業務の可視化による校務全体に対する共通理解の深化。</li> <li>企画委員会を中心とした学校課題の共通理解と、解決に向けた組織的な課題の検討。</li> </ul>			

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日	
学 校 関 係 者 か ら の 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	
令和2年 月 日	

